

ダルク 追っかけ調査 2018

利用者データブック

国立精神・神経医療研究センター



ダルク 追っかけ調査 2018

利用者データブック

国立精神・神経医療研究センター



目次

はじめに	1
1. ダルク追っかけ調査とは	2
2. 基本属性	4
3. 断薬率・断酒率	6
4. 再使用率	8
5. 断薬継続者の特徴	10
6. 生活上の変化	12
付録 調査票	16
ダルク一覧表	21

はじめに

覚せい剤取締法違反による検挙者数は年間1万人を超え、同一罪名の再犯者率は60%を超える高い状態が続いています。繰り返される薬物事犯の背景には、薬物依存症（国際的な診断基準のある精神障害のひとつ）が関与していると考えられています。

2016年6月には薬物使用等の罪を犯した者を主たる対象者とする「刑の一部執行猶予制度」が施行され、刑期の途中から社会に出て、再犯を防ぐ支援や治療を受けながら立ち直りを支援していく制度がスタートしました。そして、続く12月には、「再犯防止推進法」が施行され、矯正施設に収容されている間のみならず、社会復帰後も途切れることなく必要な指導や支援を受けられるようにする等の基本理念が明記されました。

薬物依存の背景のある薬物事犯者を支援するにあたり、ダルクなどの民間支援団体との連携が重要であることは言うまでもありません。しかし、ダルク利用者の経過については、まとまったデータがなく、断薬率や再犯率などの基礎資料が不足していました。

本書は、全国のダルク利用者の経過を前向きに追跡した「ダルク追っかけ調査」という調査研究プロジェクトの成果をまとめたものです。薬物依存者の処遇・治療・支援に携わる方々に、ダルク利用者の実態や経過について正しく理解していただくことを狙いとして作成されました。

2019年3月

国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所薬物依存研究部

1. ダルク追っかけ調査とは

ダルク追っかけ調査とは、全国のダルク利用者を対象とした追跡調査（コホート研究）です。ダルク利用者の断薬や就労状況を調べることで、利用者の経過を明らかにすることを目的としています。

まず、2016年7月の時点で活動が確認できた計57団体に調査への協力依頼文書を郵送しました。その後、各施設にアポイントを取り、実際に施設を訪問し、調査に関する説明を行いました（2016年7月～9月）。

計57団体のうち46団体（協力率80.7%）から調査への協力依頼をいただきました。なお、残りの9団体のうち5団体からは協力辞退の意向があり、4団体からは調査対象となる該当者がいないため辞退という回答をいただきました。

2016年10月から12月にかけて、協力が得られた計46団体の利用者（入所者、通所者、および無給職員）を対象に初回調査を実施しました。初回調査とは、追跡調査の起点となる情報（基本属性、薬物使用歴、依存重症度など）を対象者本人から取得することを目的とする調査のことで、ベースライン調査とも呼ばれます。これは自記式のアンケートにより実施しました。計701名より初回調査の回答をいただきました。白紙回答等を除いた695名を本書における分析対象としています。

初回調査の完了後は、6ヶ月に一度のペースでフォローアップ調査を行いました。フォローアップ調査は、各施設の職員による聞き取りによって実施されました。本書では初回調査から24ヶ月後までのフォローアップ結果について掲載されています。フォローアッ

プ調査では、過去6ヶ月間の薬物・アルコール使用、就労状況、自助グループへの参加頻度などを尋ねました。初回調査およびフォローアップ調査の詳しい調査項目は、巻末の調査票をご参照ください。

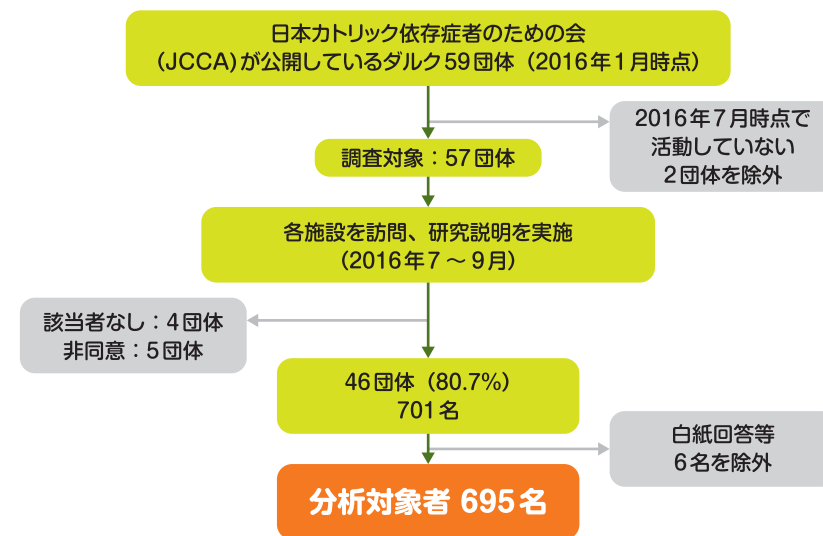


図1. 対象施設および対象者のフローチャート図

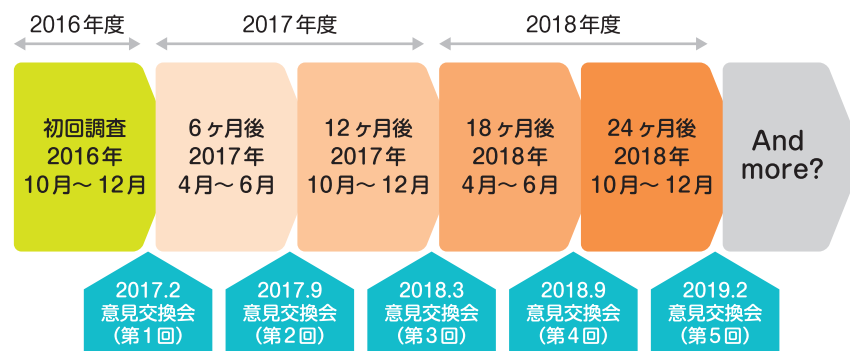


図2. 調査を実施したタイミング

2. 基本属性

まずは、分析対象となったダルク利用者695名のプロフィールです。性別は男性が93.1%、女性が6.9%でした。平均年齢は43.3歳、最高齢は85歳でした。

主たる依存症は、薬物依存が70.6%、アルコール依存が24.5%、その他の依存症が4.9%でした（図3）。その他の依存症にはギャンブル依存やクレプトマニア（窃盗症）が含まれます。

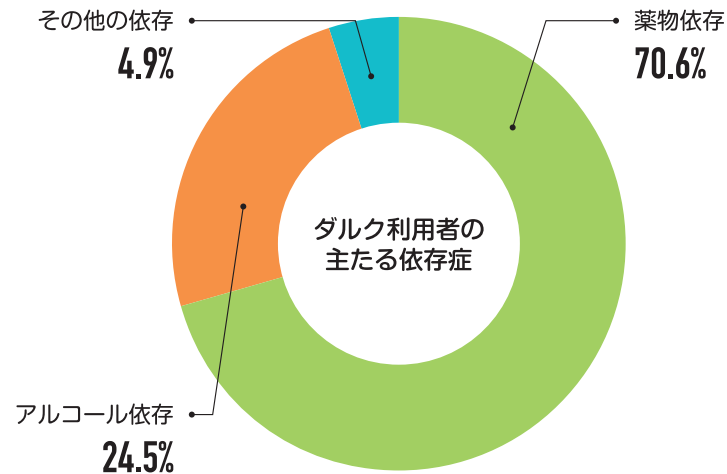


図3. ダルク利用者の主たる依存症

主たる依存症が薬物依存であった492名に対して、ダルク利用開始時に最も問題となっていた物質について尋ねたところ、覚せい剤が61.2%と最も多く、危険ドラッグ13.2%、処方薬5.9%、有機溶剤5.9%、大麻4.9%、市販薬4.3%と続きました（図4）。

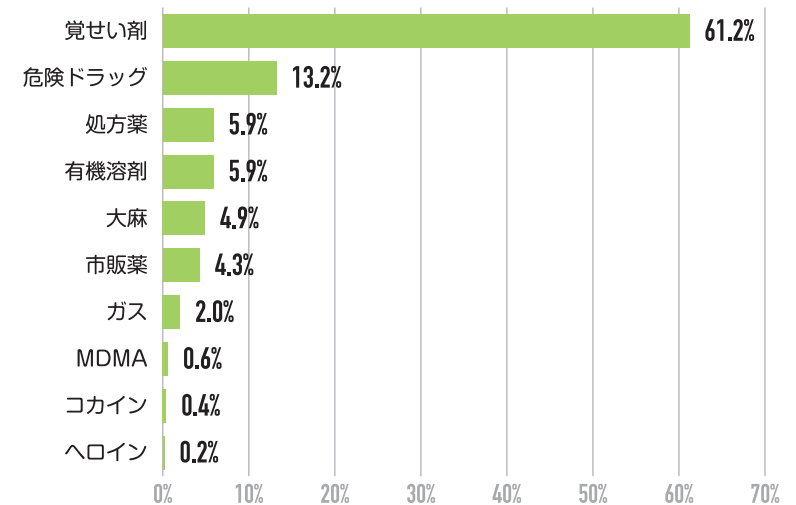


図4. 主たる依存薬物

ダルク利用開始時における法的状態としては、満期釈放後14.5%、執行猶予中（保護観察なし）8.3%、仮釈放中7.5%、執行猶予中（保護観察あり）4.0%、保釈中1.4%と続いています（図5）。

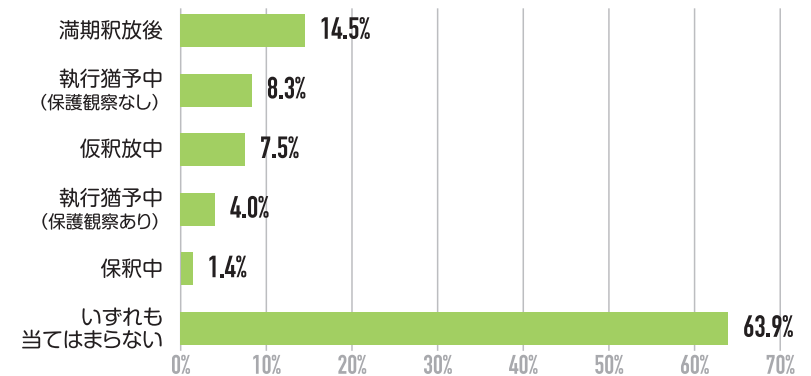


図5. ダルク利用開始時における法的状態

3. 断薬率・断酒率

ここでは、ダルク利用者の断薬率・断酒率についての結果を示します。ここでいう断薬・断酒とは、追跡期間中に一度も薬物（あるいはアルコール）を使っていない完全断薬のことを指します。

なお、本書では回復（リカバリー）や、回復率といった表現はあえて使わないように配慮しました。薬物依存からの回復というと薬をやめること（つまり、断薬）をイメージする方は少なくありません。しかし、実際には再使用を繰り返しながらも、薬物を使わない期間が徐々に長くなり、回復を遂げる人も大勢いらっしゃると思います。また「回復」という言葉も多義的であり、単に薬をやめるだけではなく、心身の回復、内面的な成長、対人関係の修復、社会への参加など多面的に捉えることが必要となります。

とはいえ、薬物依存者の処遇・治療・支援に携わる方々、あるいは当事者家族の方々の中には、断薬率や断酒率の実際について知りたいというニーズがあることも事実です。

そこで本書では、断薬率は、依存症からの回復における要因のひとつに過ぎませんが、依然として十分な情報が得られていない重要指標として捉えています。

図6は、24ヶ月後までの断薬率・断酒率の変化をみたものです。ダルク利用者の断薬率は、6ヶ月後で88%、12ヶ月後で77%、18ヶ月後で70%、24ヶ月後で63%と高い水準を保っています。一方、断酒率は断薬率を下回り、6ヶ月後で80.7%、12ヶ月後で67.6%、18ヶ月後で61.6%、24ヶ月後で56%という結果になりました。

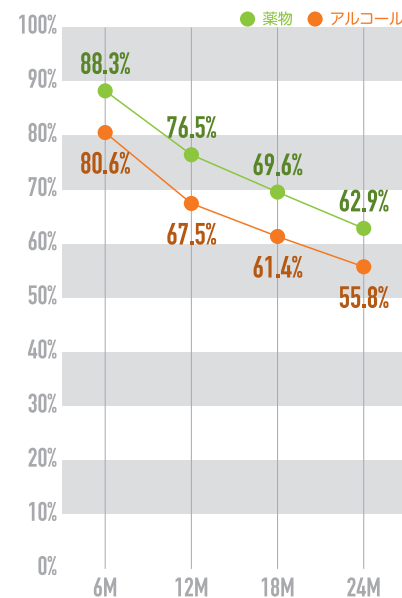


図6. 断薬率・断酒率（全員）

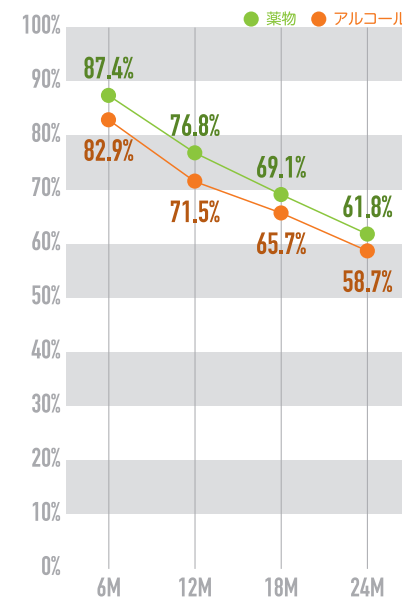


図7. 断薬率・断酒率（薬物依存）

図7は、薬物依存者だけに限定した結果です。ダルク利用者には主たる依存対象がアルコールやギャンブルの方も含まれますので、薬物依存の対象者だけを純粋にピックアップして断薬率を算出しました。結果は、6ヶ月後で87%、12ヶ月後で77%、18ヶ月後で69%、24ヶ月後で62%と高い状態が保たれていました。

保健所で酒害相談を受けたアルコール依存症患者の断酒率（1年予後）が26.9%¹、精神保健福祉センターで認知行動療法プログラムを受けた薬物依存症患者の断薬率（6ヶ月予後）が54.5%²という過去の研究報告と比較すると、ダルク利用者の断酒率・断薬率は高い水準であると言えます。

4. 再使用率

ダルク追っかけ調査では、6ヶ月を単位にスタッフの聞き取り調査によって、アルコールや薬物の再使用状況を確認しています。つまり、自己申告に基づく測定ということになりますので、当然、正直に答えたくないという心理が働き、過少申告となる可能性は否定できません。

図8および表1に対象者全体の再使用率の推移を示しました。本書では、6ヶ月ごとの区間使用率を示しています。薬物の再使用率は、6ヶ月後5.3%、12ヶ月後5.8%、18ヶ月後4.0%、24ヶ月後4.5%でした。いずれの区間も再使用率は低く、薬物の再使用が発生している様子はそれほどなさそうに見えます。ただし、フォローアップ調査時に連絡がとれなかった人については、再使用に関する情報がないため「不明回答」をどのように扱うかによっても、再使用率の算出方法は変わります。不明回答は、6ヶ月後4.7%、12ヶ月後12.1%、18ヶ月後15.3%、24ヶ月後19.3%と時間の経過とともに増加していることがわかります。

これらの「不明回答」に対して、「再使用してしまったから、ダルクから離れてしまい、結果として情報が得られなかったのでは？」という指摘は否定できません。薬物の再使用率には、不明回答の中に、再使用ケースも含まれる可能性があります。

一方、アルコールの再使用率は、6ヶ月後12.7%、12ヶ月後10.8%、18ヶ月後9.4%、24ヶ月後8.5%と薬物の再使用率を上回っていました。

なお、図9には、薬物依存者だけをピックアップした結果を掲載しています。

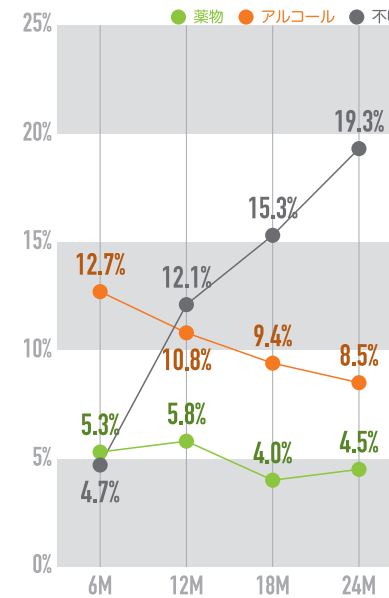


図8. 再使用率の推移 (全体)

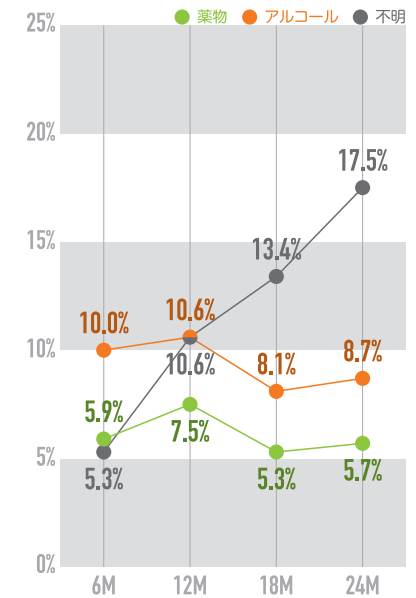


図9. 再使用率の推移 (薬物依存のみ)

表1. 再使用率の推移 (対象者全体、n=695)

	6ヶ月	12ヶ月	18ヶ月	24ヶ月
薬物の再使用率	5.3%	5.8%	4.0%	4.5%
不明回答	4.7%	12.1%	15.3%	19.3%
アルコールの再使用率	12.7%	10.8%	9.4%	8.5%

5. 断薬継続者の特徴

では、断薬が続いている人にはどのような共通項があるのでしょうか。その特徴がわかれば、これから断薬を目指す人にとっても有益な情報となるはずです。

1つ目の特徴は、「仲間や職員との関係者が良好であること」が断薬を維持する上で重要であることが明らかになっています。依存症からの回復という共通の目標をもった仲間や職員との出会い、つまり良好なフェローシップが断薬を継続するために有効であるといえます。2つ目の特徴は、「回復のモデルとなる仲間の存在」です。自分もあの人みたいに回復したいと、先行く仲間と出会うことが断薬を維持するために必要であることが示されています。一方、プログラム参加の積極性については、前向きであっても、前向きでなくても差はありませんでした(図10)。

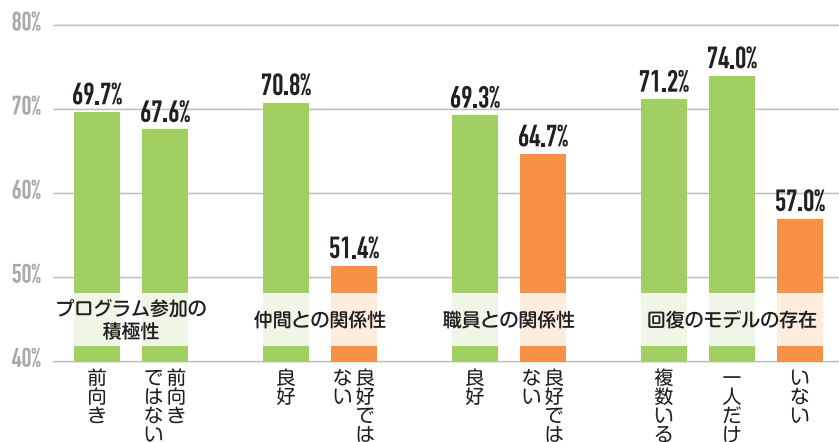


図10. 仲間・職員との関係性、回復モデルの存在と18ヶ月時点における断薬率との関係(薬物依存者n=419)

そして3つ目の特徴が、「自助グループへの定期的な参加」です。NAやAAに定期的に参加している人は、断薬率・断酒率ともに高い状態を維持していますが、自助グループへの参加頻度が低い人たちは、断薬率・断酒率も低いという結果が得られています(図11)。

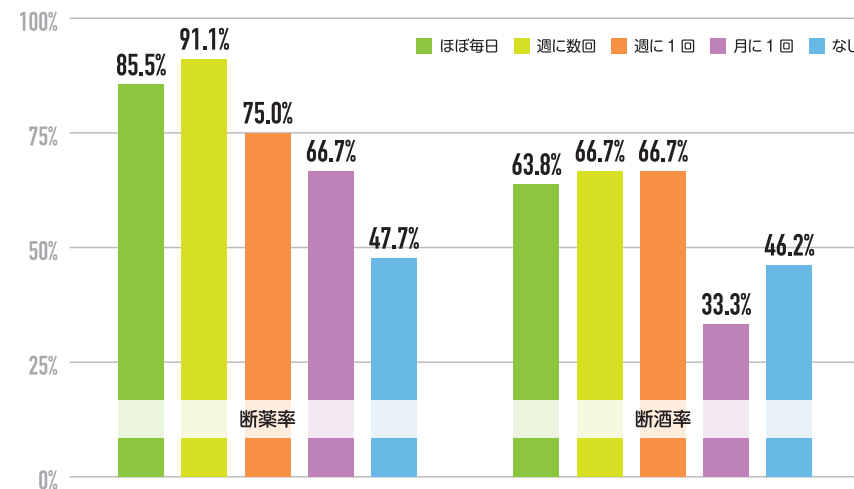


図11. 自助グループ参加頻度と18ヶ月後における断薬率・断酒率との関係(薬物依存n=419、アルコール依存n=169)

<断薬を継続させる3つの要因>

- ▶ 良好なフェローシップ
- ▶ 回復のモデルの存在
- ▶ 自助グループへの定期的な参加

6. 生活上の変化

生活状況、就労状況など、ダルク利用者の生活上の変化についてもみていきましょう。図12は、ダルク利用者の生活拠点の変化を示したものです。時間の経過とともに、ダルクで生活している人が減り、自宅で生活を始める人が次第に増えていることがわかります。これは依存症からの回復が順調に進み、自立的な生活が送れるようになっていく人が増えていることを示す結果といえるでしょう。

その一方で、他施設に移動となった人、精神的・身体的に具合が悪くなり入院中の人、薬物の再使用などを理由に警察に逮捕された人、施設を飛び出して行方不明となった人、そして残念ながら亡くなってしまった人がいることも事実です。

とはいえ、ダルク利用者における再犯率は驚くほど低いことが示されています。追跡開始から24ヶ月後において逮捕・勾留・受刑中だった人はわずか2.7%にとどまります。

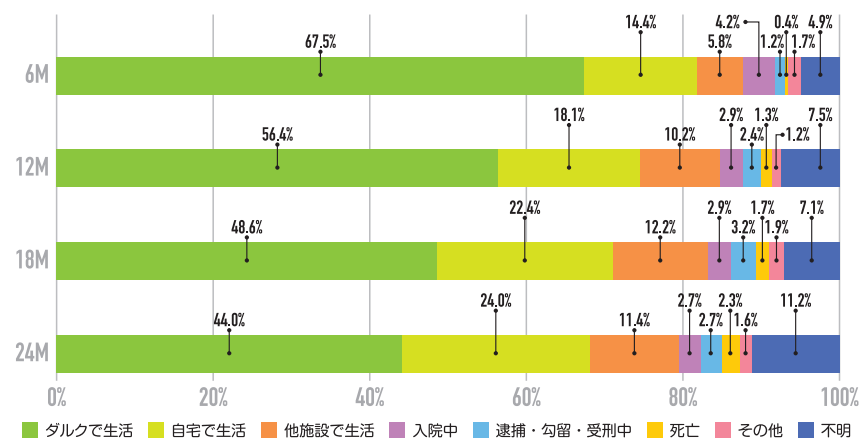


図12. ダルク利用者の生活拠点の変化 (6ヶ月～24ヶ月後まで)

図13に未就労率および生活保護受給率の変化について示しました。未就労率、生活保護受給率ともに初回調査から24ヶ月後にかけて、減少し続けていることがわかります。一方、就労を始める人が次第に増えていく様子もわかります。特に、一般就労を始める方、ダルクの常勤職員となる方は増加傾向にあります。このように、ダルク利用開始時には生活保護を受給していた人が、時間の経過とともに、生活保護を受けずに自立的な生活が送れるようになっていくことがわかります。(図14)。

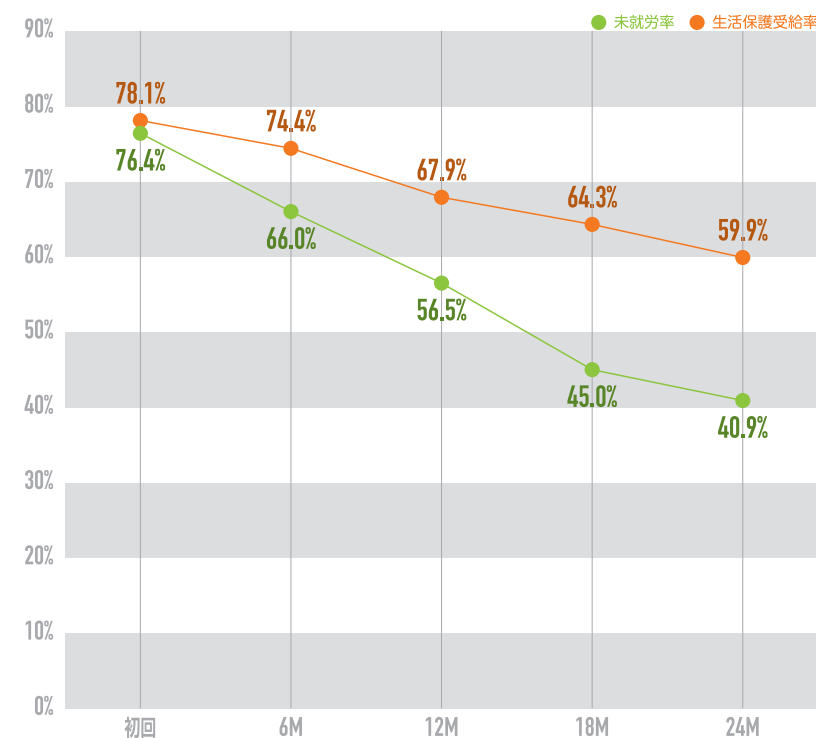


図13. 未就労率および生活保護受給率の変化 (初回調査から24ヶ月後まで)

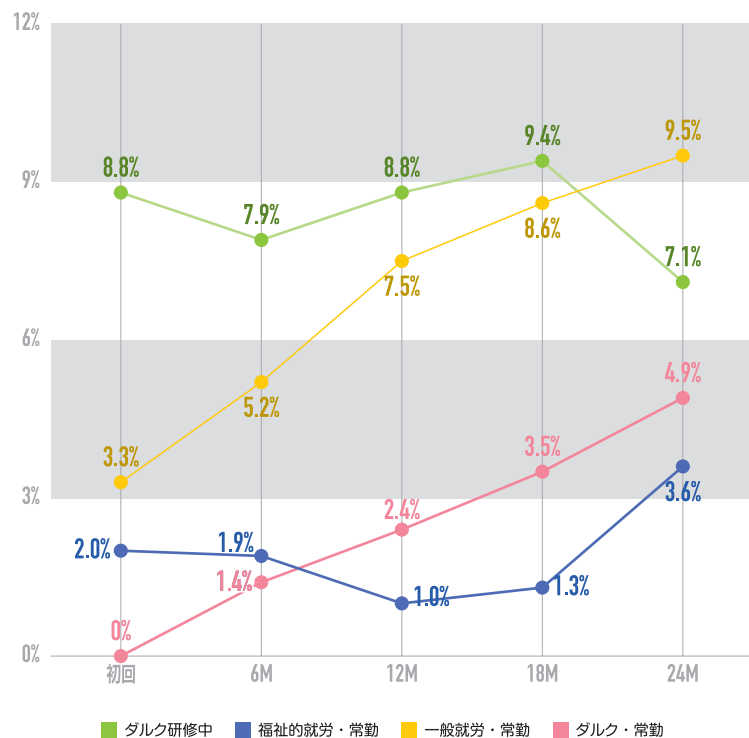


図14. 就労率の変化
(ベースラインから24ヶ月後まで)

終わりに

ダルク追っかけ調査にご協力いただきました各施設のスタッフの皆様、利用者の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。ダルク追っかけ調査は、今後もフォローアップを継続する予定です。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

【引用文献】

1. 徳永雅子：アルコール依存症の長期予後研究－保健所酒害相談来所者9年間の追跡調査－、アルコール依存とアディクション、13(3), 229-237, 1996.
2. 近藤 あゆみ、ほか：精神保健福祉センターにおける薬物依存症再発予防プログラム「TAMARPP」の有効性評価、日本アルコール・薬物医学会雑誌、49(2), 119-135, 2014.

【研究報告書】

嶋根卓也、ほか：民間支援団体利用者のコホート調査と支援の課題に関する研究、平成28年度厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業（精神障害分野）「刑の一部執行猶予制度下における薬物依存者の地域支援に関する政策研究（研究代表者：松本俊彦）」平成28年度総括・分担研究報告書：pp83-98, 2017.

嶋根卓也、ほか：民間支援団体利用者のコホート調査と支援の課題に関する研究、平成29年度厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業（精神障害分野）「刑の一部執行猶予制度下における薬物依存者の地域支援に関する政策研究（研究代表者：松本俊彦）」平成29年度総括・分担研究報告書：pp107-118, 2018.

上記の報告書はインターネットで公開しています。

<https://www.ncnp.go.jp/nimh/yakubutsu/report/index.html>



ダルク利用者調査 初回アンケート

A あなたのプロフィール

Q1

現在のあなたは、どれに当てはまりますか？（○は一つ）

1. 入所利用者 2. 通所利用者 3. スタッフ研修中（ボランティア・スタッフ）

Q2

ダルク利用にあたって、最も問題となっている（いた）依存症を選んでください（○は一つ）

1. 薬物依存 2. アルコール依存 3. ギャンブル依存 4. その他の依存症

Q3

あなたが生まれた時の性別（生物学上の性）を選んでください（○は一つ）

1. 男性 2. 女性 3. その他（インターセックス）

Q4

現在の年齢を教えてください（ 歳）

Q5

現在のダルクにつながった時の法的状態で、当てはまるものを選んでください（○は一つ）

1. いずれも当てはまらない 2. 保釈中であつた 3. 執行猶予中であつた（保護観察無し）
4. 執行猶予中であつた（保護観察付き） 5. 仮釈放中であつた 6. 満期釈放後であつた

Q6

現在、あなたは何らかの仕事をしていますか？（○は一つ）

1. 就労していない 2. 就労中（福祉的就労・非常勤） 3. 就労中（福祉的就労・常勤）
4. 就労中（一般就労・非常勤） 5. 就労中（一般就労・常勤）
6. 就労中（ダルクのボランティア・研修中） 7. その他（復学、通学など）

Q7

現在、生活保護を受けていますか？（○は一つ）

1. 受けている 2. 受けていない（申請中）
3. 受けていない（以前受けていた） 4. 受けていない（一度も受けていない）

Q8

あなたの最終学歴はどちらに当てはまりますか？

1. 中学校卒業・高校中退 2. 高校卒業以上

Q9

これまでの受刑回数（刑務所に入った回数）をお答えください

- 薬物犯罪（覚せい剤取締法違反など） ●薬物犯罪以外（窃盗、傷害など）
1. 一度もない 1. 一度もない
2. （計 回） 2. （計 回）

Q10

現在のダルクにつながる前に受けていた治療・支援をすべて選んでください

1. 他の回復支援施設（ダルク等） 2. 精神病院・クリニック 3. 自助グループ（NA, AAなど）
4. 精神保健福祉センター・保健所 5. 刑務所・保護観察所での離脱指導 6. いずれも受けていない

Q11

現在、あなたは依存症（薬物・アルコール・ギャンブル）以外の精神障害の診断を受けていますか？（例えば、気分障害・統合失調症・発達障害・摂食障害など）

1. 受けている 2. 受けていない 3. わからない

Q12

現在、あなたは慢性疾患（糖尿病、循環器疾患、ガンなどの身体の病気）の診断を受けていますか？

1. 受けている 2. 受けていない 3. わからない

B ダルクでの生活について

Q13

現在のダルクにつながった（利用開始）時期を教えてください

平成（ ）年（ ）月

Q14

現在、ダルクでのプログラムに、あなたはどのくらい前向きに参加していますか？

1. 大変前向き 2. どちらかといえば前向き
3. どちらかといえば前向きではない 4. 全く前向きではない

Q15

現在、あなたとメンバー（他の利用者）との関係性はどのくらい良好ですか？

1. 大変良好 2. どちらかと言えば良好
3. どちらかと言えば良くない 4. 大変良くない

Q16

現在、あなたとスタッフ（職員）との関係性はどのくらい良好ですか？

1. 大変良好 2. どちらかと言えば良好
3. どちらかと言えば良くない 4. 大変良くない

Q17

現在、あなたには回復のモデルとなるような仲間（スタッフも含め）がいますか？

1. 複数いる 2. 一人だけいる 3. 一人もいない

C 性感染症や性行動について

Q18

これまでに診断された感染症で、当てはまるものすべてに○をつけてください（当てはまる項目すべてに○）

1. A型肝炎 2. B型肝炎 3. C型肝炎 4. クラミジア
5. 梅毒 6. HIV感染症 7. 淋菌感染症 8. いずれもない

Q19

これまでに、あなたが性交（セックス）をしたことがある相手はどれに当てはまりますか？（○は一つ）

※ここでいう「性交」とは、膣性交あるいは肛門性交のことです。口腔性交（オーラルセックス）は含みません。

1. 男性のみ 2. 女性のみ 3. 男性と女性の両方 4. 性交経験がない

Q20

自分あるいは相手の飲酒の影響でコンドームを使わないセックスをした経験がありますか？

1. ない 2. ある（1回～数回程度） 3. ある（何回も）

Q21

自分あるいは相手の薬物使用の影響でコンドームを使わないセックスをした経験がありますか？

1. ない 2. ある（1回～数回程度） 3. ある（何回も）

Q22

あなたにとって、薬物使用とセックスとの結びつきはどのくらい強いですか？

1. かなり強い 2. どちらかと言えば強い 3. どちらかと言えば弱い 4. かなり弱い

Q23

現在、あなた自身が自覚している性別（こころの性）を選んでください

1. 男性 2. 女性 3. トランスジェンダー 4. いずれも当てはまらない

Q24

現在のあなたの性的指向（恋愛や性愛の対象）を選んでください

1. 異性愛者（ストレート） 2. 同性愛者（ゲイ、レズビアン） 3. 両性愛者（バイセクシュアル）
4. 決めたくない 5. わからない 6. その他

㊦ あなたの薬物使用歴

Q25

次にあげる薬物の使用経験（1. ない、2. ある）をお答えください
使用経験がある場合は、初めて使った年齢をご記入ください

	これまでに1回でも使用した経験	初回使用年齢
喫煙・飲酒		
タバコ	1. ない 2. ある	(歳)
お酒（アルコール）	1. ない 2. ある	(歳)
規制薬物の使用		
有機溶剤（シンナー、トルエン等）	1. ない 2. ある	(歳)
ガス（ライターガス、ガスパン）	1. ない 2. ある	(歳)
大麻（マリファナ、ハシシ）	1. ない 2. ある	(歳)
覚せい剤（シャブ、エス）	1. ない 2. ある	(歳)
コカイン	1. ない 2. ある	(歳)
ヘロイン	1. ない 2. ある	(歳)
MDMA（エクスタシー）	1. ない 2. ある	(歳)
危険ドラッグ（ハーブ、リキッド、パウダー）	1. ない 2. ある	(歳)
乱用目的での処方薬（病院からもらう薬）※治療目的での使用は含みません		
睡眠薬	1. ない 2. ある	(歳)
抗不安薬	1. ない 2. ある	(歳)
抗うつ薬	1. ない 2. ある	(歳)
抗精神病薬	1. ない 2. ある	(歳)
鎮痛薬（痛み止め）	1. ない 2. ある	(歳)
乱用目的での市販薬（薬局で買える薬）※治療目的での使用は含みません		
鎮咳薬（せきどめ）	1. ない 2. ある	(歳)
風邪薬	1. ない 2. ある	(歳)
鎮痛薬（痛み止め）	1. ない 2. ある	(歳)
鎮静薬・睡眠改善薬（ウット等）	1. ない 2. ある	(歳)

Q26

ダルク利用にあたり、最も問題となっている（いた）薬物を一つだけ選んでください（○は一つ）

- | | | | | |
|---------------|-----------------|-----------------|---------|---------|
| 1. 有機溶剤 | 2. ガス | 3. 大麻 | 4. 覚せい剤 | 5. コカイン |
| 6. ヘロイン | 7. MDMA | 8. 危険ドラッグ | 9. 処方薬 | 10. 市販薬 |
| 11. アルコール（お酒） | 12. その他（ ） | 13. いずれも当てはまらない | | |

Q27

これまでに、注射器で薬物を使ったことがありますか？

1. ない 2. ある（1回～数回程度） 3. ある（何回も）

Q28

これまでに、注射器の回し打ち（他人が使った注射器をそのまま使うこと）や共有（他人と同じ注射器を使うこと）をしたことがありますか？

1. ない 2. ある（1回～数回程度） 3. ある（何回も）

Q29

ここでは、過去12ヶ月における薬物使用の状況をお答えいただきます。
時間をさかのぼって、ダルク利用前の過去12ヶ月間についてお答えください
（本日より過去12ヶ月間ではありません）。

ダルク利用前に刑務所に入っていた方は、刑務所に入る前の過去12ヶ月間についてお答えください。
アルコール依存やギャンブル依存症の方も含めて、すべての方がお答えください。

注意事項

ここでいう「薬物使用」とは、以下の1～3のいずれかを指します（使用回数に関わらず）。
1. 違法薬物（大麻、有機溶剤、覚せい剤、コカイン、ヘロイン、LSDなど）を使用すること
2. 危険ドラッグ（ハーブ、リキッド、パウダーなど）を使用すること
3. 乱用目的で処方薬・市販薬を不適切に使用すること（過量摂取など）
※飲酒は「薬物使用」に含みません。

1	薬物を使用しましたか？（治療目的での使用を除く）	・ダルク利用前の過去12ヶ月間	はい	いいえ
		・ダルク利用前の過去6ヶ月間	はい	いいえ
		・ダルク利用前の過去1ヶ月間	はい	いいえ
2	乱用目的で処方薬を使用しましたか？		はい	いいえ
3	一度に2種類以上の薬物を使用しましたか？		はい	いいえ
4	薬物を使わずに1週間を過ごすことができましたか？		はい	いいえ
5	薬物使用を止めたいときには、いつでも止められましたか？		はい	いいえ
6	ブラックアウト（記憶が飛んでしまうこと）やフラッシュバック（薬を使っていないのに、使っているような幻覚におそわれること）を経験しましたか？		はい	いいえ
7	薬物使用に対して、後悔や罪悪感を感じたことはありましたか？		はい	いいえ
8	あなたの配偶者（あるいは親）が、あなたの薬物使用に対して愚痴をこぼしたことがありましたか？		はい	いいえ
9	薬物使用により、あなたと配偶者（あるいは親）との間に問題が生じたことがありましたか？		はい	いいえ
10	薬物使用のせいで友達を失ったことがありましたか？		はい	いいえ
11	薬物使用のせいで、家庭をほったらかしにすることがありましたか？		はい	いいえ
12	薬物使用のせいで、仕事（あるいは学業）でトラブルが生じたことがありましたか？		はい	いいえ
13	薬物使用のせいで、仕事を失ったことがありましたか？		はい	いいえ
14	薬物の影響を受けている時に、ケンカをしたことがありましたか？		はい	いいえ
15	薬物を手に入れるために、違法な活動をしたことがありましたか？		はい	いいえ
16	違法薬物を所持して、逮捕されたことがありましたか？		はい	いいえ
17	薬物使用を中断した時に、禁断症状（気分が悪くなったり、イライラがひどくなったりすること）を経験したことがありましたか？		はい	いいえ
18	薬物使用の結果、医学的な問題（例えば、記憶喪失、肝炎、けいれん、出血など）を経験したことがありましたか？		はい	いいえ
19	薬物問題を解決するために、誰かに助けを求めたことがありましたか？		はい	いいえ
20	薬物使用に対する治療プログラムを受けたことがありましたか？		はい	いいえ

アンケートは以上です。もう一度確かめてから封筒に入れてください。ありがとうございました。

全国ダルク一覧表

フォローアップ調査X回目 (XXXX年XX月XX日～XX日まで)

施設ID:XX	施設名	(XXXX ダルク)
さい	担当者名	(XXXXXXXX)

[illegible][illegible]

福祉的就労とは、作業所や就労支援事業所等を指します。初回アンケートの対象者が10名を超える場合は次のページにご記入ください。

名称	所在地	電話
日本DARC	〒162-0055 東京都新宿区余丁町14-4 AICビル1F	(03) 5312-7587 Fax: (03) 5312-7588
日本DARC インフォメーション センター	〒162-0055 東京都新宿区余丁町14-4 AICビル3F ●日本DARCホーム ●日本DARCサンライズレジデンス ●日本DARCナイトハウス ●日本DARCサニーハイツ寮	03-5369-2595 Fax: (03) 5369-2596
日本DARC 神奈川	〒231-0865 神奈川県横浜市中区北方町1-21	(045) 624-1585
東京DARC	〒116-0014 東京都荒川区東日暮里3-10-6	(03) 3807-9978 Fax: (03) 3803-0509
東京DARC セカンドチャンス	〒110-0003 東京都台東区根岸5-8-16 大空庵ビル2F	(03) 3875-8808 Fax: (03) 3875-8760
Flicka Be Woman (フリッカ) DARC	〒114-0014 東京都北区田端6-3-18 ピラカミムラ301号	(03) 3822-7658 (月火水木) Fax: 3822-7662
新宿DARC COA自立の家	〒169-0074 東京都新宿区北新宿3-5-2	(03) 5937-5663 【Fax兼用】
板橋DARC COA自立の家	〒175-0092 東京都板橋区赤塚3-21-9	(03) 5968-3555 Fax : (03) 5967-1337
渋谷DARC ヒーリングセンター	東京都世田谷区上馬 (住所非公開)	(03) 6453-2324 【Fax兼用】
八王子ダルク	〒192-0073 東京都八王子市寺町43-9 中銀八王子マンション101号室	(044) 686-3988 Fax : (042) 628-2922
横浜DARC デイケアセンター	〒232-0017 神奈川県横浜市中区宿町2-44 宮前ビル1階	(045) 731-8666 Fax: (045) 743-4029
川崎DARC	〒211-0044 神奈川県川崎市中原区新城4-1-1 新城NHビル2階	(044) 798-7608 Fax: (044) 798-7610
コージーブレイス (女性)		(044) 789-8370
相模原DARC	〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原6-23-9-2F	(042) 707-0391 Fax: (042) 707-0392
相模原DARC 相模湖リカバリー センター	〒252-0174 神奈川県相模原市緑区千木良769-5	(042) 684-9673 Fax: (042) 684-9674

西湘DARC	〒257-0006 神奈川県秦野市北矢名1225 テラスハウスヒロ	(0463) 77-6755 【Fax兼用】
千葉DARC	〒260-0841 千葉県千葉市中央区白旗3-16-7	(043) 209-5564 Fax: (043) 209-5565
館山DARC	〒294-0037 千葉県館山市長須賀195館山ウィズホール1	(0470) 28-5526 Fax: (0470) 28-5527
埼玉DARC	〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-12	(048) 823-3460 Fax: (048) 823-3461
埼玉DARC 川口ホーム	〒333-0847 埼玉県川口市芝中田1-29-2 メゾン山口101号	
藤岡DARC	〒375-0047 群馬県藤岡市上日野2594	(0274) 28-0311 Fax: (0274) 28-0313
山梨DARC本部	〒400-0857 山梨県甲府市幸町9-25	(055) 242-7705 Fax: (055) 242-7706
山梨DARC デイクアセンター	〒400-0856 山梨県甲府市伊勢4-21-1 清水ビル	(055) 223-7774 Fax: (055) 267-8874
富士五湖DARC デイクアセンター	〒403-0008 山梨県富士吉田市下吉田東1-9-1	(0555) 72-9760 (日中) (0555) 72-8652 (夜間) Fax: (0555) 72-8701
群馬DARC	〒370-0002 群馬県高崎市日高町144	(027) 363-3308 【Fax兼用】
長野DARC	〒386-0155 長野県上田市蒼久保1522-1	(0268) 36-1525 Fax: (0268) 36-1526
富山DARC	〒931-8371 富山県富山市岩瀬古志町19-1	(076) 407-5777 Fax: (076) 407-5778
北海道DARC	〒065-0025 北海道札幌市東区北25条東5丁目1番17号	(011) 750-0919 Fax: (011) 750-0920
とかちダルク	〒080-0042 北海道帯広市西12条北1丁目13	(0155) 67-0911 Fax: (0155) 67-0912
青森ダルク	〒030-1272 青森県青森市小橋田川15-1	(017) 718-2090 【Fax兼用】
秋田DARC	〒019-2601 秋田県秋田市河辺和田字坂本北285-3	(018) 827-3668 Fax: (018) 827-3669
鶴岡DARC	〒999-7544 山形県鶴岡市中山字瓜沢60-4	(0235) 64-8149 Fax: (0235) 64-8159
新潟DARC	〒950-1446 新潟県新潟市南区庄瀬6583	(025) 378-4031 Fax: (025) 378-4032
茨城DARC 「今日一日ハウス」	〒307-0021 茨城県結城市大字上山川6847	(0296) 35-1151 Fax: (0296) 35-2448

DARC 女性シェルター とちぎ		
磐梯DARC リカバリーハウス	〒966-0402 福島県耶麻郡北塩原村大塩4459-1 〒966-8779 福島県喜多方郵便局私書箱21号(郵便物)	(0241) 33-2111 Fax: (0241) 33-2323
鹿島DARC	〒314-0143 茨城県神栖市神栖1-6-26	(0299) 93-2486 Fax: (0299) 93-5508
鹿島DARC シャロームハウス	〒314-0143 茨城県神栖市神栖31-6-26	(0299) 93-5507 Fax: (0299) 93-5508
仙台DARC	〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉2-1-26	(022) 261-5341 Fax: (022) 261-5340
栃木DARC	〒320-0014 栃木県宇都宮市大曾2-2-14 形松ビル2階	(028) 650-5582 Fax: (028) 650-5597
ピースフルプレイス (女性)		
静岡DARC	〒419-0111 静岡県田方郡函南町畑毛205-5	(055) 978-7750 Fax: (055) 957-3515
スルガDARC	〒422-8058 静岡県静岡市駿河区中原931-1 ダルクビル	(054) 283-1925 【Fax兼用】
浜松DARC	〒430-0853 静岡県浜松市南区三島町1807	(053) 442-7711 【Fax兼用】
名古屋DARC	〒462-0825 愛知県名古屋市中区大曾根1-16-6	(052) 915-7284 【Fax兼用】
三河DARC	〒440-0871 愛知県豊橋市新吉町73先 大手ビルE棟104号	(0532) 52-8596 【Fax兼用】
三河DARC 岡崎デイクアセンター	〒444-0860 愛知県岡崎市明大寺本町3丁目12 善隣センタービル3階	(0564) 64-2349 【Fax兼用】
三重DARC	〒514-0004 三重県津市栄町3-130	(059) 222-7510 【Fax兼用】
岐阜DARC step house	〒500-8864 岐阜県岐阜市真砂町11-12 不破ビル4階	(058) 201-3555 【Fax兼用】
大阪DARC	〒533-0021 大阪府大阪市東淀川区下新庄4-21 A-103	(06) 6323-8910 Fax: (06) 6323-8910
Freedom	〒533-0021 大阪府大阪市東淀川区下新庄4-21 A-105	(06) 6320-1463 【Fax兼用】
京都DARC	〒612-0029 京都市伏見区深草西浦町6丁目1-2 サンリッチ西浦1階	(075) 645-7105 【Fax兼用】

京都DARC ネクサス①②		
木津川DARC	〒619-0214 京都府木津川市木津内田山117	(0774) 51-6597 【Fax兼用】
神戸DARC ヴィレッジ	〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通1-1-20 長坂ハイツ2F	(078) 224-4244 Fax: (078) 219-9741
びわこDARC	〒520-0813 滋賀県大津市丸の内町8-9	(077) 521-2944 Fax: (077) 521-2977
東近江DARC	〒527-0034 滋賀県東近江市沖野2-10-7	(0748) 26-2713 【FAX兼用】
鳥取DARC	〒681-0001 鳥取県岩美郡岩美町牧谷645-4	(0857) 72-1151 【Fax兼用】
和歌山DARC	〒641-0007 和歌山県和歌山市小雑賀3-2-12	(073) 496-2680 【Fax兼用】
岡山DARC	〒701-4244 岡山県瀬戸内市邑久町福中477	(0869) 24-7522 Fax: 0869-24-7523
広島DARC	〒730-0043 広島県広島市中区富士見町11-27 一階	(082) 242-2157 【Fax兼用】
高知DARC インテグレーション	〒780-0870 高知県高知市本町5-6-35 つちばしビル1F	(088) 856-8106 【Fax兼用】
高知DARC 女性ハウス「ちゃめ」		
香川DARC	〒761-0113 香川県高松市屋島西町675-8	(050) 1581-3146 【Fax兼用】
徳島DARC	〒770-0861 徳島県徳島市住吉4-3-64 ラヴィータ博愛パートIII 202号	(050) 1581-3146 【Fax兼用】
えひめDARC	〒791-8013 愛媛県松山市山城2丁目6-32	(050) 1581-3146 【Fax兼用】
九州DARC ダイケアセンター	〒812-0017 福岡県福岡市博多区美野島2-5-31	(092) 471-5140 【Fax兼用】
北九州DARC ダイケアセンター	〒802-0064 福岡県北九州市小倉北区片野4-13-30 片野タカケンビル1階	(093) 923-9240 【Fax兼用】
佐賀DARC	〒840-0012 佐賀県佐賀市北川副町大字光法1648	(0952) 28-0121 【Fax兼用】
熊本DARC	〒862-0971 熊本県熊本市中央区大江2-14-14 七條ビル101号	(096) 202-4699 【Fax兼用】

大分DARC	〒870-0021 大分県大分市府内町3-7-19 藤本ビル3F	(097) 574-5106 【Fax兼用】
長崎DARC	〒852-8105 長崎県長崎市目覚町14-15 浜ビル2F	(095) 848-3422 【Fax兼用】
宮崎DARC	〒880-0027 宮崎県宮崎市西池11-36	(0985) 38-5099 【Fax兼用】
DARC 女性ハウス九州	〒880-0027 宮崎県宮崎市西池11-36	(0985) 38-5099 【Fax兼用】
鹿児島DARC	〒892-0848 鹿児島県鹿児島市平之町3-2 丸和ビル1F-101号室	(099) 226-0116 【Fax兼用】
沖縄DARC 「サントゥアリオ」	〒901-2225 沖縄県宜野湾市大謝名2-2-10 サンサン沖縄大謝名ビル4F	(098) 943-8774 Fax: (098) 943-8281
沖縄DARC アモール (女性ハウス)	沖縄DARC「サントゥアリオ」まで	
沖縄DARC 「クレアドル」	〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐1-7-19	(098) 893-8406 Fax: (098) 917-2560

【研究責任者】

嶋根 卓也 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物
依存研究部

【研究協力者】

近藤あゆみ 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物
依存研究部

米澤 雅子 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物
依存研究部

喜多村真紀 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物
依存研究部

近藤 恒夫 日本ダルク・NPO法人アパリ

松本 俊彦 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物
依存研究部

この冊子は、厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業（精神障害分野）「刑
の一部執行猶予制度下における薬物依存者の地域支援に関する政策研究（研究代表
者：松本俊彦）」および厚生労働省「依存症に関する調査研究事業」の成果をもとに
作成されました。

ダルク追っかけ調査2018－利用者データブック－

印刷・発行：2019年3月31日

編集：国立精神・神経医療研究センター

〒187-8553 東京都小平市小川東町4-1-1

電話：042-346-1954（薬物依存研究部）

メール：shimane@ncnp.go.jp（嶋根卓也）

